知事訪米の概要

平成27年度
沖縄県知事公室

－目次－

１．訪米概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．訪米日程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

３．訪米団員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

４．活動の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
ヒロノ上院議員面談 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
ガバット上院議員面談 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
ハワイ現地メディア記者会見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
シャーツ上院議員面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
ハワイ沖縄センタースピーチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
イゲハワイ州知事面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
CFR（新外交問題評議会）シーラ・スミス氏面談・・・・・・・・・・・・22
在アメリカ合衆国日本大使表敬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
CSIS（米戦略国際問題研究所）マイケル・グリーン氏面談 ・・・・・24
マケイン上院議員、リード下院議員面談 ・・・・・・・・・・・・・・・25
ビショップ下院議員面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
国務省、国防総省幹部面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
CNAS（新アメリカ安全保障センター）
パトリック・クローニン氏面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
コクラン上院議員面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
デント下院議員面談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
連邦議会調査局インタビュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
ナショナルプレスクラブ会見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

１．訪米概要

①目的

戦後70年を経た今もなお、国土面積約0.6パーセントの沖縄県に、米軍専用施設面積の約74パーセントが存在し、沖縄には過重な負担が続いている。

平成27年５月17日の県民大会を始め、名護市長選挙、県知事選挙、衆議院選挙の結果でも、辺野古新基地反対という県民の圧倒的な民意が示されている。

今回、知事自身が訪米し、米国政府要人、連邦議員等と面談し、辺野古新基地建設に反対する県民世論及びそれを踏まえた建設阻止に向けた考えを伝え、米国側の理解と協力を促す。

②活動内容

（１）面談（計19名）

連邦議員	８名
米国政府要人	２名
有識者	４名
州知事	１名
連邦議会調査局	４名

（２）記者会見

ハワイ記者会見（於：ハイアットプレスワイキキビーチホテル）

ワシントンD.C.記者会見（於：ナショナルプレスクラブ）

（３）沖縄コレクションセレモニー（於：ジョージワシントン大学）

（４）国内外マスコミ取材

③日程

平成27年５月27日（水）～６月５日（金）

④訪米団員

知事、知事秘書、通訳、知事公室長、知事公室職員　合計７名

2. 訪米日程

日本時間			米国時間			訪米日程
月日	曜日	時間	月日	曜日	時間	
5/27	水	10:45				出発式　（那覇空港でいごの間）
		12:00				沖縄発（NH2158）
		14:40				成田着
		21:35				成田発（NH0182）
			【以下　米国ハワイ標準時間(HST)　日本との時差　マイナス19時間】			
5/28	木	4:55	5/27	水	9:55	ホノルル着
					13:30	メイジー・ヒロノ上院議員面談
					14:00	トゥルシー・ガバッド下院議員面談
		10:00			15:00	総領事館表敬
5/29	金	5:00			10:00	現地メディアとの記者会見
			5/28	木	11:30	ブライアン・シャーツ上院議員面談
		14:00			19:00	ハワイ沖縄連合会　知事スピーチ
		15:30			20:30	ハワイ沖縄連合会一部役員と夕食会
5/30	土	4:30	5/29	金	9:30	イゲ　ハワイ州知事面談
		10:50			15:50	ホノルル空港発（UA0144）
5/30	土		【以下　米国東部標準時間(EST)　日本との時差　マイナス13時間】			
		20:11	5/30	土	7:11	ワシントン　ダレス空港着
5/31	日					
		2:00	5/31	日	13:00	知事　ワシントン事務所視察
6/1	月	3:00			14:00	県議等　ワシントン事務所視察
		23:00	6/1	月	10:00	CFR、シーラ・スミス氏面談
		3:30			14:30	在アメリカ合衆国日本国大使館　佐々江大使　表敬
6/2	火	5:00			16:00	CSIS、マイケル・グリーン氏、ニコラス・セチェイニ氏面談
		23:30	6/2	火	10:30	マケイン上院議員、リード上院議員面談（議員会館）
		4:00			15:00	ビショップ下院議員面談　（議員会館）
6/3	水	5:00			17:15	ジョージワシントン大学、沖縄コレクション　セレモニー
		7:00			18:00	ジョージワシントン大学　交流レセプション
		22:30			9:30	国務省日本部長・国防総省国防次官補代理代行面談（国務省）
			6/3	水		CNAS、パトリック・クローニン氏面談
						コクラン上院議員面談（議員会館）
6/4	木					チャールズ・デント下院議員（議員会館）
						連邦議会調査局インタビュー
		7:30			18:30	合同記者会見　ナショナル・プレス・クラブ13F
		1:20	6/4	木	12:20	ワシントン　ダレス空港発　（NH0001）
6/5	金	15:25				成田着
		17:55				成田発（NH2159）
		20:55				那覇空港着

3. 団員名簿

No.	氏　名 Name	職　　名 Position	担当業務
1	翁長　雄志 Takeshi Onaga	沖縄県知事 Governor	
2	町田　優 Masaru Machida	知事公室長 Director General, Executive Office of Governor	事務・総括
3	岸本　義一郎 Yoshiichiro Kishimoto	知事特別秘書 Governor's Secretary	知事秘書
4	運天　修 Osamu Unten	基地対策課長 Director, Millitary Base Affairs Division	事務・広報
5	新垣　耕 Ko Arakaki	地域安全政策課主幹 Asssociate Director, Regional Security Policy Division	記録・庶務
6	阿波連　貴夫 Takao Aharen	秘書課主査 Supervisor, Secretary Division	通訳
7	仲西　昌人 Masato Nakanishi	基地対策課主査 Supervisor, Millitary Base Affairs Division	記録・庶務

4. 活動の概要

活動の概要

内容:ヒロノ上院議員面談
日時:2015年5月27日(水)
面談者:メイジー・ヒロノ連邦上院議員、スタッフ
備考：取材不可

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明を行った。

○　ヒロノ議員は、埋め立てに対する沖縄の立場、考え方は理解したとしながら、米国代表者として交渉する立場にはないとした。その他、米国の民主主義等についての発言があった。

活動の概要

内容:ガバット上院議員面談
日時:2015年5月27日(水)
面談者:トゥルシー・ガバット連邦上院議員、スタッフ
備考 : 取材不可

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明を行った。

○　ガバット議員からは、知事の話は参考になった、次回お会いする際は、沖縄からの提案を聞きたい等の発言があった。

訪米記録（ハワイ現地メディア記者会見）

日時：2015 年 5 月 28 日（木）

【ハワイ沖縄連合会　勢理客さん】
今日はみなさんお越し頂きありがとうございます。特にハワイのメディアの皆様には、非常に間近になってのご案内となりましたが、お越しいただきました。今日は新聞社のスターアドバタイザーさん、ハワイヘラルドさん、ハワイパシフィックプレスさん、そしてラジオ局も２局来ております。そして KITV テレビ局もお越し頂いております。今日の司会は基地対策課長の運天課長そして、通訳が私（阿波連）が勤めます。

【基地対策課長】
ハイサイ、グスーヨー、チューウガナビラ。おはようございます。これから翁長沖縄県知事の会見を始めさせて頂きたいと思います。
まず、最初に知事から、今回の訪問について説明させて頂き、その後質問を受けたいと思います。やりとりは通訳を挟んで行いますのでよろしくお願いします。
ご紹介します。沖縄県知事翁長雄志でございます。

【翁長知事】
ハイサイ。アロハ。
ただいまご紹介頂きました沖縄県知事の翁長雄志でございます。今日は、沖縄から 20 名、沖縄の基地問題ということで、このハワイにイゲ知事が誕生しまして、それから上院議員、下院議員、沖縄県人会が大変日頃からお世話になっている皆様方に沖縄のことをお伝えして、ご理解とご協力を得ようということでやって参りました。
1899 年に、我が沖縄県から、志を大きく持って移民の皆さん方がこちらに来られて、大変な苦労がありましたけども、みんな立派に成功して、こちらからいろんな形で沖縄に発信するものがありまして、私はハワイにおられる沖縄県人会の皆さん、沖縄の皆さんが心から尊敬もしながら、これからも力合わせて頑張って行こうと考えております。
私も市会議員、県議会議員、それから那覇市長を 14 年間、そして今県知事になりまして約半年。那覇市はホノルル市と姉妹都市を結んで 50 年を超えます。そして今年は沖縄県とハワイ州の姉妹都市になっての 30 周年記念と、その式典の 7 月には私はもう一回、お伺いをしようと思いますが、これで私がハワイにお伺いをするのは、二十数回ということでございます。
このハワイでは沖縄県人会の多くの方が一生懸命頑張っておられます。アメリカ合衆国に誇りを持って、アメリカ国民の一人として、またふるさとを思いながら頑張っておられる訳でして、私も日米安保体制というか、日米同盟には大変理解をしながら今日まで政治活動をしてきた政治家であります。
しかしながら、こういう形でこうして皆様方とお話しが出来て、明日またイゲ州知事とお話しした後、ワシントン D.C.に行きまして沖縄の基地問題を訴えて行かなければならないことは、大変残念ではありますけども、ただ、沖縄の置かれている状況を改めて皆様

にご説明させて頂いて、本当の意味での日本とアメリカ合衆国が力を合わせて、アジアのために、世界のために頑張っていけるような仕組みの中で、沖縄があればいいなと思っています。

時間がたくさんありませんので、断片的にお話しすることをお許し下さい。

戦争が終わりまして、サンフランシスコ講和条約で日本の独立の代わりに、沖縄が米軍の占領下に置かれました。

その間の 27 年間は沖縄県民は日本国民でもないし、アメリカ国民でもございませんでした。

今ある沖縄の基地は、ある意味で全て強制接収、沖縄の方が借りて下さいと言ったことではなくて、私達が収容所に入っている間、あるいはそこに住んでいる時にも、みんなどかされて今の基地ができあがったというのが、基地の原点です。

戦後 70 年なりますけども、沖縄県は日本全体の面積の 0.6 %しかございません。その 0.6 %に日本にある米軍の専用施設の 73.8 %が、この沖縄に集中している。沖縄本島でいうと、110 万人住んでいますけども、その中の約 20 %を米軍基地が占めているわけです。

ですから、日米関係、日米安保体制を考える上でも、私どもが申し上げているのは、いくらなんでも沖縄一県に、こんなに 70 年間もこんなにたくさん置いておいて、日本の安全保障を守るんだという話では通らないのではないかと。日本国民全体で、そういった米軍基地も平等に受けて、そして日本全体で日本の安全保障体制、日米同盟というのを築いて行くべきではないか、沖縄にはあまりにも多すぎますよということを申し上げにこちらに立っていますし、ワシントン D.C.にも行くことになります。

普天間基地は、13 年前にラムズフェルド国防長官が普天間基地を視察して、こんな世界一危険な基地はないと、早く移設をしなければいけないということでございまして、早く移設をしようということになりましたが、その移設をするという場所が、さらに沖縄県の大浦湾という珊瑚礁の美しい海がありますけども、そこを 161 ha埋め立てて、普天間から辺野古に移すということで、日米両政府が合意に達したということに、沖縄県民は大変残念に思っております。なぜかというと、普天間飛行場は自分たちで差し出した基地ではございませんから、強制的に接収されましたので、これが世界一危なくなったら、また沖縄県に置くというのはですね、これは大変おかしいのではないかということを言っているわけです。

これは沖縄を代表する二つの新聞、沖縄タイムスと琉球新報ですけども、５月 17 日に新辺野古基地は絶対に作らせないということで、県民に集まるようにお願いしましたら、今３万５千人と言っていますけども、実際上４万人、５万人お集まり頂いて、辺野古に基地は作らないでくれという集会を持ちました。

このことにあるように、もう新辺野古基地には造らせないということで、沖縄県民が遠い辺野古に、いつも何百人という形で行って、毎日、反対のデモをしております。

私は、父も兄も戦後ずっと政治家で、ずっと保守系、自由民主党でして、私も 30 年間の政治活動は、ずっと自由民主党で。しかしながら、今回のことは、そういったイデオロギーとは関係なく、沖縄の小さな島にこんなにたくさんの基地を置いたらいかんじゃないかということで、保守も革新も関係なく、ある意味でオール沖縄と言っていますけども、それから、イデオロギーではなくアイデンティティーと言っていますが、これはいくらな

んでも、将来の子や孫に、これ以上、後 100 年間もですね基地を置いておくというのは、あの 70 年前の沖縄県民が 10 万以上亡くなって、日米両軍の兵隊さんが同じく 10 万人くらい亡くなって、20 万人以上亡くなったというものは、もう二度と沖縄で起きて欲しくないというような気持ちで県民は、今心を一つにしております。

そういことで、昨年は４つの大きな選挙が沖縄でありました。一つは辺野古がある名護市長選挙、そしてもう一つは名護の市議会議員選挙、そして私の沖縄県知事選挙、それから日本全体で行われる衆議院選挙は、沖縄では４選挙区ありますが、この全てで、新辺野古基地は作らせないという立候補者が当選致しました。

そういうことで、詳しいことは言えませんが、辺野古に新基地は造らせない、そして造れないということは、私達今の県民の意思としてはっきりしていると思います。

そして、アメリカ政府の方は、これは、日本国内の問題だから、日本政府と話をしなさいということになっておりますが、実際上は、沖縄にある基地は米軍が使用していますので、辺野古に基地が出来ないということになりましたら、アメリカ政府にとっても、これは、私達は関係ありませんということではないと思っております。そういう意味で、日米安保体制、日米同盟というものが、世界にアジアに、本当に品格のある、誇りの持てる同盟のあり方として、沖縄の基地を正常に戻して、そして私も平等である限りにおいては、沖縄に米軍基地があるのも全然問題ではない。そういう意味では支えられていきます。ですから、そういう意味での日米の安定した体制を作ってもらいたいということで、普天間は辺野古に移さないで県外に持っていってもらいたいということを訴えております。

そして、基地と経済の問題も話をしなければなりませんが、時間が半分くらいまできていますので、一つだけ申し上げて、質問があればそれに答えたいと思いますが、20 ～ 30 年くらい前までは沖縄にとって基地経済というのは、大変重要でありましたが、この 20 ～ 30 年は、むしろ沖縄本島の 20 %、基地が一番いいところにあるもんですから、沖縄経済の発展の最大の阻害要因になっております。ですから、基地が返されたら、そこは跡地利用、街ができまして発展しております。雇用も 100 倍くらいなっておりますので、これはご質問があった時に、またお答えしたいと思います。

【ハワイメディア１】

答えを一言で頂きたいのですけども、基地を県外にということがありましたが、これは沖縄にある全ての基地を県外にということなんでしょうか。それともその特定の基地を県外にということか。

【翁長知事】

先ほど、日本の安全保障というものは日本国民全体で考えてもらいたいということは、沖縄県も平等でありましたら、日米安保体制あるいは米軍基地もサポートしていきたいと思っております。今、私達が申し上げているのは、普天間の基地の県外移設。あと嘉手納とかいろいろありますけども、そういった全部を持っていけというのではなく、普天間の基地は県外に持っていってもらいたいということを言っています。

【ハワイメディア１】
　ヒロノ議員とシャーツ議員にお会いしたかと思いますけども、何とおっしゃっていましたか。

【翁長知事】
　ヒロノ上院議員は、皆さん方の言うことはよく分かりますが、日本国内の中で解決をしてもらいたいと。しかしながら、皆さん方の話を聞いていましたら、日本政府もよく沖縄の声に耳を傾けるべきだという風には思いますというのが、ヒロノさんのご意見だったと思います。たくさんお話ししたので、一言でいうとこういう感じでございました。

【ハワイメディア１】
　後ひとつ質問です。辺野古に基地が移設された場合に、環境の影響についてどう考えますか。

【翁長知事】
　安全保障の問題と並んで大きいのは、大浦湾というのは沖縄県で一番大切なランク１の海になります。沖縄にも珍しいジュゴンが３頭、泳いでおりまして、そのジュゴンが絶滅危惧種になります。そういう意味では、ジュゴンがいなくなることが大きい上に、そこは沖縄県全体がそうでありますけども、珊瑚礁と稀少価値の生物が住んでいますので、そこを 161 ha埋めるということがですね、環境問題としての一番の沖縄県の懸念です。それで、沖縄県でも環境保全は難しいという結論を出してあったんですけども、残念ながら、今そこに基地を造るということになっております。
　これは、ジュゴンが食べる藻場と言って、これをジュゴンは食べるためにこの辺野古に来る訳ですね。そしてウミガメとか、いろんな小さな動物がおります。今、こういう風に工事が始まっておりまして、どんどん埋め立てようとしているのですが、４５トンのアンカー代わりのブロックを珊瑚礁の上に置いたりするもんですから、今そういったものを調査させてくれとしているんですが、調査もさせてくれません。今、こういう状況を県民が知っているもんですから、これは絶対に造らせないということになっております。

【ハワイメディア２】
　二つ質問があります。まずひとつ、実際に辺野古の建設工事は行われているのでしょうか。もう一つの質問、例えば日本政府が交換条件として嘉手納飛行場を本土に持っていくといった場合、県としては容認するのでしょうか。

【翁長知事】
　工事は、去年の７月から、まだ調査の段階です。調査をするために、いわゆるフロートという、ここから入っちゃいけませんよというフロートを、沖縄は台風なんかもあったりするもんですから、アンカーで留めておくためにですね、それでも私達からすると１キロ２キロぐらいが正常だと思うんですが、４５トンのブロックでもってアンカー代わりにしてフロートを安定させようとするもんですから、下にある珊瑚礁が心配なので調査をさせ

て下さいと言うんですけども、調査をさせてくれないということになります。ですから、工事が、埋立は始まっておりませんが、日本政府は、７月、夏頃からはそこに土を入れると言っているので、あと２ヶ月しか余裕がないもんですから、私達は、まずは、工事を中断してこの基地の問題に対して当事者である沖縄県と日米両政府が話をして下さいと話をしています。

その量は 161 haを埋めますので 10 トンダンプで 10 万台の土が一年間かけて（聞き取れず）土を入れます。

嘉手納飛行場の件ですけども、今、米軍も日米両政府も沖縄の基地で一番重要なのは極東でアジアで一番大きな基地が嘉手納基地なもんですから、辺野古、普天間の問題が、嘉手納に影響を及ぼすのではないかと心配をしています。ですから、何が大切かというと、米軍の話では嘉手納が一番。普天間は、まあ２番目か３番目なんですね。だけれども、日本政府からいうと普天間基地を受け入れるところは本土にはないので、みんながいやだと言っているので、沖縄県にそのまま置きたいということで、辺野古に置くことになります。ですから、私からすると、今のままでいくと、嘉手納も動かない。普天間も動かない。にもかかわらず辺野古の海は埋められるということになるわけです。

【ハワイメディア２】

先ほど交換条件ですが、嘉手納というのは一例として出したのですが、沖縄にはその他にも多くの基地があるわけです。その他の基地を本土が受け入れてくれることであればどうですか。

【翁長知事】

基地がたくさんあるわけですが、本土で受け入れるということをどこもやりません。沖縄県は、県議会も４１市町村長も４１市町村議長もみんな一緒になってダメだと言っても沖縄には置くことになりますが、他の４６都道府県は知事さんが選挙も関係なく、ダメですよと、私達はそれは受け入れられませんよと言ったら、そうですかと言って、むこうでは引き下がるんですね。ところが、沖縄県はみんながあれだけたくさんの人が集まって嫌だと言っても、それから県議会が４１市町村議会が決議をしてもですね、なんにも聞いてくれないというのが、沖縄であります。沖縄の歴史とか、いろんな話を致しますと大変ややこしくなりますから、話しませんが、沖縄は特別なのかなというのは私は思っております。

【ハワイメディア３】

日本国民が同じ考え方をして、平等な合意をするということなんですけど、どういったことですか。

【翁長知事】

沖縄県の面積は、日本全体の 0.6 ％しかないんですね。そこに米軍専用施設の日本全体の、本来なら平等に置くべきものの 73.8 ％が小さな沖縄県に置かれているんです。例えば普天間基地は九州に、キャンプ瑞慶覧、あるいはキャンプキンザー、こういう名前言っ

ても分からないかもしれませんが、A という基地、B という基地は四国に持っていく。そいうふうに平等にやればですね、沖縄も米軍基地を置いて、日米安保体制をしっかりと守っていくという意味では問題ないんですが、沖縄県だけに、73 %も置いて、70 年間ずっとですよ。そして今度また、新辺野古基地ができるというのであればですよ、それからまた 70 年間、100 年間沖縄がずっと背負うということになると、70 年前の戦争のこともありますので、沖縄県民からするとこれは耐えがたいと、なんとか解消して頂きたいということを強く思っております。

【ハワイメディア４】
地元のケージーラジオ奥田と申します。今、リロケーションという話題も出ているんですけども、移設。反対すると言うことに対して、代替案を持って反対するという沖縄県でもあると思いますので、今ちょうど、九州や四国というロケーションが出ましたけども、まずひとつは、そういった地域に対して沖縄県はこれから、例えばメリット、デメリットをお話しする機会というのを持つ予定でしょうか。

【翁長知事】
沖縄県は、今日は読谷村長さんも名護市長さんも、議長さんいるんですけども、基地問題があるというだけで、飛行機から部品が落ちたり、ほんとに 20 ～ 30 年前は、ひき逃げとかいろんな事件事故があったんですね。こういうものに時間を割くことがたくさんありまして、こういう、なぜ日本国全体で基地を考えなきゃいかんものを沖縄県が四国まで行ったり、九州まで行ったり、お願いしますよと。国の問題でしょ。ですから、私達の土地は自分たちから、どうぞ使って下さいと言ったわけではなくて、強制的に接収されたんですよね。それが老朽化して危険だから、おまえ達が考えろと、自分たちは取られた方なのに、それをどかすから、おまえ達がね（聞き取れず）を考えなさい。沖縄が嫌だったら、日本全国どっかへ行って、新しいところを探して、そこの人にお願いをして沖縄の基地をどかしなさいと言われると、私達は、そういうものに翻弄されて、子供のこととかお年寄りのこととか観光で生きていくとか、いろんな諸々の全部できなくなってしまいます。また、外交権がないもんですから、いわゆる日本政府に訴える。そしてアメリカ政府に訴えて、日米安保体制をしっかり守るためには、こういったことをしっかりやらないとダメですよと訴えるだけが、私達の力であって。ああいうふうに３万５千人、４万人が集まるというのは大変なことなんですね。沖縄ではそういう集まりを持って、NO だと言っていますけども。そのために、今日こうして来ているんですが、今日、地元のマスコミの皆さん、たくさんお見えになって心強いんですが、どこまでそれが伝わっていくかというのは、私からするとまだまだだなと、是非、皆さん方のお力を借りたいというように思うわけです。

【基地対策課長】
ありがとうございました。次のスケジュールがありますので、これで終わりたいと思います。

活動の概要

内容:シャーツ上院議員面談
日時:2015年5月28日(木)
面談者:ブライアン・シャーツ連邦上院議員、スタッフ
備考：取材不可

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明を行った。

○　シャーツ議員からは、知事から話があったことは、ワシントン等にも伝えたい。私も、書籍を読んで沖縄問題を勉強したが、今日、知事から直接聞いて、大変その理解を深くした等と述べた。

活動の概要

内容:ハワイ沖縄センタースピーチ
日時:2015年5月28日(木)

【ハワイ沖縄連合会　マーク比嘉会長】
ハワイには、強くそして様々な、うちなーんちゅコミュニティーがあります。
私達一人ひとりが、様々に異なった方法で沖縄文化を継承しています。同様に、ハワイと沖縄で抱える問題に対して、非常に多くのそして様々に異なる意見を持っています。
今回、翁長知事はいくつかの見解を私達と共有してくれることと思います。
今回、私達は、翁長知事の見解と情報を聞いて学ぶことができる機会に、とても感謝しています。翁長知事の見解を、今日、私達は、聞き伝えではなく、インターネットからの遅れて訳された情報でもなく、直接かつ正確に聞くことができます。
このフォーラムはあくまでも教育の一環であり、情報を共有することのみを目的としていることを、私は宣言し、明確にする必要があります。
私達がこのフォーラムを開催することは、決してハワイ沖縄連合会、またその従業員、リーダー達又はメンバー達の見解を示すものではありません。私達はとても大きな組織であり、非営利団体であり、特定の課題に対して働きかけ、支持することはできないということを、皆様が理解して頂いていることに感謝しています。しかしながら、私達にとってそれぞれの視点や事実を知り、学ぶことは重要なことです。
会場を見て頂いても分かるように私達は、翁長知事のメッセージにとても関心があり、聞くことを楽しみにしています。また、これは教育を目的としているため、私達にメッセージを届けたいという翁長知事の要望に敬意を表し、一切の阻害行為、又はサイン、横断幕を使用することを禁止しています。講演者又はオーディエンスの妨げになる行為は、ご遠慮下さいますようよろしくお願いします。
遠い沖縄からめんそーれ。いっぺーにふぇーでーびる。

【翁長知事スピーチ】
はいさい！　アロハ！　ぐすーよー、ちゅーうがなびら。沖縄県知事ぬ、翁長雄志やいびーん。ゆたさるぐとぅ、うにげーさびら。ちゅーや、うんぐぅとぅっし、うほくのうちなーんちゅが、めんそーちくみそーち、でーじうっさいびーん。いっぺーにふぇーでーびる。
今日は、先ほど比嘉会長からもお話しがありましたとおり、基地の問題で来はしましたけれども。私、ハワイは、これでだいたい 25 回目くらいお伺いしております。那覇市議会議員、県会議員、それから那覇市長を 14 年やりましたので。今回、そういったことで来ておりますけども、仕事以外で来たことがないのが残念であり

ます。

今日は、ハワイ州出身の上院議員お二人と、下院議員一人と話をさせて頂きました。昨日、今日と、大変すばらしい交流ができました。

明日はまた、私も昨年 11 月に沖縄県知事になった訳ですが、イゲハワイ州知事と、同じ時期に当選いたしまして、明日お会いできるのを楽しみにしています。これから、沖縄県とハワイ州の、本当に兄弟のようなお付き合いの新しい出発にしたいと思います。

今年は、沖縄県とハワイ州の姉妹都市を締結してから 30 周年。そして私は去年まで那覇市長をしておりましたけども、那覇市とホノルル市の姉妹都市も 50 年を超えております。

先ほど比嘉会長からもアメリカ合衆国の国民として大変誇りを持っていて、それから沖縄出身ということでも大変誇りを持っていると聞きまして、大変嬉しく思っております。

皆様方が、このアメリカ合衆国に、本当に誇りと敬意を表しながら、なおかつ私共ふるさと沖縄にも愛情を注いで頂いていることに、私達はいつも感謝をしておりますし、今日までのハワイの県人会が、戦前、戦後という形で沖縄県に色んなご協力を頂いたことを私達は忘れたことがございません。

7 月に行われる 30 周年の式典、それから今年の 10 月には、那覇の方で大綱引き、那覇祭りがございます。毎年、ハワイからおいでになりますが、是非とも、10 月の 30 周年の沖縄での式典もおいで頂きたいと思います。今年 7 月の、こちらでの 30 周年は、私は必ずここに参りたいと思っております。それから、来年の世界のうちなーんちゅ大会、これは 5 年に 1 回やっておりますが、世界中から 6 千名のうちなーんちゅが集って、沖縄の文化を楽しんで頂くようになっていますが、来年もまた、時間を作って、ふるさと沖縄県においで頂く事を願っております。

70 年前は、沖縄で唯一のあの戦争で地上戦がございました。沖縄の人で 10 万人を超える人が亡くなって、それから日本軍、それからアメリカ軍合わせてやはり 10 万人の合計 20 万人以上が亡くなったわけでございます。

戦争の話は詳しくはしませんが、その時に、アメリカ軍の一員として、ハワイの二世の方々が沖縄に参りました。そして、出て行ったら米軍に殺されるのではないかという（時に）、沖縄県民にハワイのうちなーんちゅが「大丈夫だから出てきなさい」と言ったことで、たくさんの方々がその声に励まされて、出てきて、たくさんの命が救われました。私は、こういう風にアメリカと日本という形で分かれていても、うちなーんちゅという気持ちで、あの戦争の中でたくさんのうちなーんちゅが、ハワイ二世の方々に、助けられたことを、同じ沖縄県民みんなが、このことを大変感謝しております。

そして、これはハワイの皆様方もよく御存知と思いますが、戦争が終わって、沖縄は豚の文化。豚を食べて生きているというか、大好きだったんですが、戦争で、豚がみんないなくなったということを、ハワイの県人会の人が聞きまして、そして、

アメリカの軍艦にお願いして、ハワイから 500 頭の豚を、戦争直後、沖縄に届けて頂きました。

その時に、沖縄につきまして、各市町村から代表者が来まして、豚を２頭ずつもらっていって、各市町村でそれを増やして、沖縄に豚がまた根付いたわけであります。

その時に、軍艦から下を見ましたら、その当時の沖縄の志喜屋知事という方が、大変みすぼらしい服装で、靴も履いていないような状況で、下で待っていたそうです。それを見たハワイの方は、船の上で、大変すばらしいきれいな格好をしておったんですが、沖縄の人の気持ちを小さくさせてはいけないということで、わざわざ、破ったり、泥を塗ったりして、汚い格好で上から降りてきたという。このうちなーんちゅの気持ちが、大変今も沖縄県民に残っております。

考えてみますと、當山久三先生が、我々の家は五大州ということで。うちなーんちゅは、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ボリビア、そしてこのハワイという形で多くの移民の方々が 100 年前から行かれました。

ハワイにおいては、サトウキビの仕事が最初だったと思いますが、大変過酷な仕事でありました。それから、南米の方に行った人たちも石のような土を耕して、何年がかりでやっと農園にして作物が取れたと、取ろうとしたら洪水があって流れてしまう。そしてマラリア等にかかって多くの方が命も亡くしました。

その苦労を重ねた 100 年前から 60 ～ 70 年前にかけて、この苦しい中から、沖縄の移民の皆さん方は、ハワイを中心として、南米の皆さん方も、せっせ、せっせと封筒にお金を入れて母県である沖縄に送って下さいました。たくさんのお金を送ってくれました。その中に手紙が必ず入っていまして、そこに何が書かれていたかと言いますと、「これでお父さんお母さんを幸せにして下さい。」「私は学校に行けなかったので弟や妹は学校に行かせて下さい」と書いてあったそうです。

このうちなーんちゅのちむぐくる、親孝行、兄弟や家族を愛する気持ち、今回のハワイの冊子ですけども、「染みてぃ」という言葉になっているようです。 「染みてぃ」というのは、てぃんさぐの花の　親ぬゆぅしぐとぅや、ちむに染みてぃと、親の言葉をいつまでも胸に秘めて、頑張りましょうという、そういったものが、ハワイの県人会の今年の言葉になっております。このちむぐくる、親を大事にする、この沖縄の人の気持ちがですね、移民で世界に行きましても、このハワイを筆頭として、たくさんのところで沖縄県の人はみんな成功しているというか、頑張っております。

今、そのことを現代の沖縄に当てはめますと、今沖縄が、アジアの成長が大変著しく、経済的な意味でも、沖縄の人たちが活躍するという意味でも、今まで日本の外れ、アジアの外れだったものが、アジアの中心になりつつあります。

琉球王朝時代、万国津梁の精神、世界の架け橋となって、この小さな沖縄県は、中国、東南アジア、アジア全部と、交流して大変活躍をしました。

この移民の皆様方が、世界に 40 万人おられますけども、それぞれが沖縄から遠

く離れて、頑張っておられる。そういった考え方、精神は、今、初めて現代でこの今の沖縄から、アジアに世界に、大きく飛び立とうとする、大きな流れができつつあります。

考えてみますと、1853 年にアメリカのペリー提督は、日本本土に行く前に、琉球に立ち寄って、1854 年琉米修好条約ということで、条約も結んで本土に行く前に、琉球に来たということであります。そして、ペリー提督は５回、沖縄県那覇に参りまして、85 日間、 琉球そして首里城に滞在というか、おられました。

ですから、アメリカ含めアジア。沖縄のこの小さな島から、大きな輪があの頃から出ている訳であります。そういう中で、私共、1972 年に日本に復帰をしました。それから 10 年毎に振興開発計画というのがありまして、戦後の 27 年間の遅れを取り戻すということで、道路を始め色んな建物とかですね、インフラといいますけども、それが 40 年間で、本当にある意味では本土に近づいてきたわけであります。

そして、４年前の第５回目の 10 年間の振興計画は、それまでは全部日本政府が作った計画に則って沖縄は発展してまいりましたが、４年前、初めて県民自らが、沖縄県はこういう形でもっと文化的にも､経済的にも発展したいんだということで、自分達で計画を作ってスタートしたのが今年で４年目になります。

これは、21 世紀ビジョンといいますけれども、今、沖縄県は、経済的な自立も当然でありますが、沖縄の移民の皆さんのちむぐくる、親を思う気持ち、沖縄らしい優しい社会を築いていこうということで、初めて、沖縄らしい優しい社会を築くということが、経済の自立とふたつ、大きな柱として、この 21 ビジョンに出てまいりました。

そういうことで、沖縄県は世界の架け橋になる。琉球王朝時代の、もう一回アメリカを含め、アジアの中で、沖縄は平和の中でそういった役割を果たしつつ、経済の交流をし、日本とアジアの架け橋になると同時に、沖縄のこれまで持ってきた全てを 21 世紀に向けて、沖縄らしいすばらしいものを築き上げていこうということで、今スタートラインに着いたわけです。

具体的に、沖縄の経済がどうなっているかということを説明いたしますと、この 21 世紀ビジョンで、アジアの成長が大変著しいですから、アジアの経済を吸収して、アジアの中心地として一番重要視しているのが３つあります。それは、何かと言いますと国際物流拠点、これは、日本とアジアの物流、物を沖縄で集めて、アジアに、また日本にということで、物流の仕組みを６年前に作り上げまして、大きな発展をしております。

那覇空港は 24 時間出来ますので、台北、上海、香港、シンガポールから、物を運んできて、日本本土に持って行きます。成田、羽田、関西空港、ここから他の都道府県のものを集めて那覇に持ってきて、アジアに伝えます。これを１日でやるようになったものですから、物流が６年前より、100 倍に増えてまいりました。

そして、もう一つが、情報通信産業。これはインターネットが発展をしたものですから、沖縄が、離島で遠いところに島があるわけですから、なかなか物を運んだ

り、飛行機で運んだりするというようなのも、大変でありますが、情報通信産業が発展をして日本本土と、香港、シンガポールを結ぶ海底ケーブルがありますけれども、それに、沖縄県が接続することができるようになりましたので、今、沖縄県では、情報通信関連産業で３万名、働いておりますし。観光産業は、4,500 億円の今、収入があるわけですが、情報通信産業は 3,000 億に迫る形で沖縄県は、情報通信産業という面でも、アジアの拠点になろうとしております。

そして、最後にもう一つが、今日まで沖縄の中心になっております（観光）。ハワイから教えも頂戴して、沖縄が国際観光リゾートという意味で、アジアの中心になりつつある上で本土からもたくさんの観光客が来ております。ちなみに昨年度は、観光客は 716 万人。海外から来た方は、90 万人、今年は特に海外の方が多くなるのではないかという風に、試算をされております。

それでもハワイには、800 万人の観光客がおいでになっています。1 人あたりの宿泊日数が 6 日ぐらいだそうです。沖縄県の場合には 3 日くらいなものですから、その意味ではハワイがやはり、観光という意味ではお兄さんということでありますので、これからも交流を通じながら、ハワイに学びつつ、この同じ太平洋の上に浮かんでいるこの島が世界の安らぎの場所になれるように頑張っていきたいと思います。

沖縄が今、アジアの中心地になるという話をしましたが、これもどういうことかと言いますと、いちゃりばちょーでー、ちゃんぷるー文化、いわゆる、うちなーんちゅの世界の架け橋として、アジアの全てと交流をした蓄積が今の沖縄の歴史、伝統、文化、自然、これ、ソフトパワーと言いますが、うやふぁーふじが、何百年も前からのお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんが築いて私達に残してくれた文化遺産、自然遺産。そういったものが、私はアジアのダイナミズムを沖縄が取り入れ、そして、これから沖縄が発信するものもそういうものになるだろうと思いますし、21 世紀ビジョンにもそのように書いております。

その意味で、うちなーの状況。大きな国に挟まれながら、大変苦労をしましたけれども、私達のご先祖は小さいながらも、空手始め、歌、三線、組踊り、色んな文化を私達残してくれました。エイサー、旗頭もみんなそうです。そういったもの等が、今私達の誇りとなっておりますし、小さな島で産まれたと言っても、皆様方のように世界に飛び出していって、頑張って成功を収めて、また沖縄に愛情を寄せてくれる、私達の子や孫も皆様方と同じように、自分のふるさとに自信を持って、誇りを持ってアジアや世界に日本に飛び立っていって頑張るようなものを作り上げようというのが、21 世紀ビジョンでございます。

そういう意味で、沖縄の文化を守っていくということでの一番大切なことは、21 世紀ビジョンの審議会ですばらしい話がありました。それは何かと言うと、うちなーぐちがなければ、沖縄のこれからの文化は廃れますよというようなことでございます。

５年前の世界のうちなーんちゅ大会でも 6,000 名の方が世界からおいでになりま

した。その方々が帰る時に、なぜ私達はブラジルでもうちなーぐちを使ったりするのに、沖縄の人はうちなーぐち使わないの、さみしいさーと言って帰ったのが私の心を痛めました。

皆様方が御存知の人間国宝の照喜名朝一先生、この方が人間国宝をもらった訳でありますけれども。４年前の 21 世紀ビジョンを作る時の一番最後の挨拶の中で、泣きながらこれから言う話をしておりました。先生がおっしゃるには、自分が人間国宝をもらったのは、沖縄の歴史、伝統、文化が認められてこの上ない光栄で嬉しいことです。ですが、夜中眠れない、夜中にぱっと目が覚めて起きてしまう。なぜかと言うと、もしかして、自分が人間国宝をもらったのは、どうせ沖縄文化は滅び行く文化だから、今のうちに照喜名さんにあげておけと、言う風にして人間国宝をもらったのではないかと。夜も眠れないくらいですと言っておりました。

なぜなら、今沖縄の人は２，３割しかうちなーぐちが、出来る人はいません。もう２，３割は聞くことは出来るが、話せません。残り三分の一はまったく分からないということになっています。もし、その状況があと２，３０年続きますと、沖縄の文化というものは、みんなうちなーぐちでなってますから、組踊りも、歌三線も、エイサーも旗頭もみんななくなってしまいますよ。助けて下さいと。先生がおっしゃったものですから。私は、なーあんせー、はいさい・はいたい運動というのをやりまして。今、県庁でも、それを進めて、多くの県民が、そういう気持ちを持ってもらって。今沖縄の文化を大切にする中から、私達は、誇りと勇気と希望を持って、なおかつ、３つの大きな産業、こういうのも沖縄の文化に支えられて経済も発展する訳ですから。うちなーぐちを大切にしようという運動を展開しています。

あと、５分 10 分のようでありますから、今回参りました（目的の）基地問題に関してお話したいと思います。沖縄の人は、沖縄にいても、複雑な気持ちを持ちながら、基地を見ています。そして沖縄のふるさとの遠いところから離れて、こちらにおいでの方も、沖縄を振り返りながら、色んな立場の中で、なかなか難しい問題だという風に考えていると思います。明日は、ワシントン DC に行きますけれども、特に沖縄県人会はですね。やはり、向こうでの立場があって、なかなか難しいものを持っております。この難しいものの中で私達がこれからどういう形で、この沖縄のことを訴えていくかということが。ここでもお話しましたが、今日は県人会あるいはその関係者ですので、今日はその気持ちだけですね。政策がどうと言うよりも、気持ちだけお話をしたいと思います。

私は、30 年間政治家をやっていますが、その在籍は全部、自由民主党でした。この沖縄の基地問題を考えるにあたっても、日米安保条約が大切だということもよく分かりますし、そういう中で、アジアや、世界が平和に暮らして行ければいいという風に考えております。

しかしながら、戦後 70 年間沖縄が置かれてきた環境は、大変なものがございました。日本の 0.6 ％に 70 年間、73.8 ％。そういった、米軍の専用施設がずっと置かれてきた訳であります。沖縄本島で言いますと、20 ％は基地であります。

沖縄は長い歴史の中で、戦前も、戦争中も、戦後も 27 年間日本から切り離されて、日本人でもアメリカ人でも、なかった訳です。そういう中でこれだけの広大な基地を抱えている沖縄でありますが、日本政府に話をしましても、これからも沖縄が基地を負担しなさいと言われます。私達は、日本国民全体で、日本全体の安全と保障は考えてもらいたい。負担してもらいたい。なぜ、沖縄にこれだけ 70 年間、そして、今度普天間が辺野古に移りますと、大変強い基地ができあがりますので、これが 100 年間続くということになると、沖縄は日本にとっての何なんだろうというような疑問が大きく湧いてきます。

今、沖縄で行われていることは、日本国もアメリカ国も民主主義国家。自由と民主主義の国と言われておりますが。沖縄で今行われていることは、日本国の一員として平等に物事をやってくれることが、大切なんですが、73 %以上、沖縄に置かれていて、なおかつ美しい大浦湾、ジュゴンが住み、美しい珊瑚礁があって、そこを 160 ヘクタール、有無を言わさず埋め立てて、新しい基地を作る。

私は日本国の、アメリカと一緒になってアジアに、世界に自由と平等と、人権を守るという共通の価値観を持つ､連帯にも資する国を作り上げていこうとするのが、日米安保だという風に思っておりますけれども、自国民に、自由と平等と人権と、民主主義が行えない国がどうやって世界で行えるんだろうということで、今、日本政府に話をしているところであります。

ですから、今の沖縄はオール沖縄、イデオロギーでなくてアイデンティティ、いわゆる保守とか革新ということではなくて、沖縄の誇りと尊厳をしっかりと子や孫に伝えて、先ほど申し上げました世界の架け橋、おじいちゃん、おばあちゃんから続いてきた、この沖縄がアジアに世界に、むしろ平和に貢献する平和の緩衝地帯として、沖縄が今の所にあって初めて。

平和がなければ、生活はやっていけません、経済もありません、文化の交流もありません。その役割をこれから、沖縄が 21 世紀で目指す大きな目標という風に思っておりまして。そういう意味での日本とアジアの架け橋、そして、アメリカと日本、そしてこの沖縄が一緒になって、平和の構築に頑張っていくというのが、21 世紀ビジョンの大きな柱だという風に考えています。

その意味で皆様方が、このハワイに 1899 年に、第一号で移民としてやってまいりました。當山久三先生が、我々が行くところは、世界の家だと、五大州だというような言葉がございます。まさしく、沖縄の志が世界にこういう形で大きく広がっております。これからの沖縄県も皆様方の後ろ姿を見ながら、世界に通用する沖縄県、そして、平和に貢献する沖縄県それを作っていくために、これからワシントン DC にも行って、日米安保条約は大切だけれども、こういう自由、平等、人権と、民主主義を伴わないものでは、大きな世界の動きにはなりませんよと、こういうことを伝えながら、日米両政府が私共の声に耳を傾けてくれることを、期待をしております。

にふぇーでーびる。

活動の概要

内容:イゲハワイ州知事面談
日時:2015年5月29日(金)
面談者:デービッド・イゲハワイ州知事
備考：取材不可

【面談の概要】

○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方を説明し、在沖海兵隊のハワイ移転等についても言及した。また、ハワイと沖縄の交流、再生エネルギーに関する連携等について話をした。

○　イゲ知事からは、知事の話は理解したが、普天間の移設は、日米両政府の問題であり、何かを決めるのは、ワシントン D.C.である等の発言があった。また、ハワイへの在沖海兵隊員の一部移転についても、政府において決まった際は、協力していきたいとした。

活動の概要

内容：CFR（新外交問題評議会）シーラ・スミス氏面談
日時：2015年6月1日（月）
面談者：日本担当上級研究員　シーラ・スミス氏、
　　通訳、スタッフ
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　辺野古移設についての沖縄県の考え、中国の台頭について、アジア及び日米安全保障体制に関する認識や、日本政府と沖縄のビジョン等について、先方の質問に答える形で意見交換を行った。

活動の概要

内容:在アメリカ合衆国日本大使表敬
日時:2015年6月1日(月)
面談者:アメリカ合衆国駐箚特命全権大使　佐々江　賢一郎 氏
内容:非公開

【面談の概要】
○　知事から、ハワイでの活動内容や沖縄の基地負担について説明。沖縄の歴史や辺野古移設に関して話をした。

活動の概要

内容：CSIS（米戦略国際問題研究所）マイケル・グリーン氏面談
日時：2015年6月1日（月）
面談者：アジア担当副代表　マイケル・グリーン氏
　　日本部長　ニコラス・セチェイニ氏
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明し、意見交換を行った。

活動の概要

内容：マケイン上院議員、リード下院議員面談
日時：2015年6月２日（火）
面談者：ジョン・マケイン連邦上院議員（上院軍事委員会委員長）
　　ジャック・リード連邦下院議員（下院軍事委員会副委員長）
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制への認識や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明を行った。

○　マケイン議員からは、翁長知事の辺野古移設に対する考えは承知しているが、私は、日米両政府の間で決めたことを支持する等の発言があった。
　また、翁長知事とは今後も継続して話をしていきたいとの発言があった。

活動の概要

内容:ビショップ下院議員面談
日時:2015年6月2日(火)
面談者:サンフォード・ビショップ連邦下院議員(軍事施設委員会委員)、スタッフ
備考:内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制への認識や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明を行った。

○　ビショップ議員からは、知事や他の方からの話を聞いて、沖縄県の状況は承知している、しかしながら、日米両政府が決めることであり、議員は、それについての権限は持っていない等の発言があった。

活動の概要

内容:国務省、国防総省幹部面談
日時:2015年6月3日(水)
面談者:国務省　日本部長　ジョセフ・ヤング氏
　　国防総省　国防次官補代理代行　キャラ・アバクロンビー氏
備考:内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制への認識や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方、県民大会等の沖縄の反対運動等について説明を行った。

○　国務省、国防総省からは、沖縄が基地を受入れていることに感謝しており、辺野古移設に関する日米両政府の決定のとおり進める、沖縄の基地は日米安全保障条約の目的に貢献している等の発言があった。
　また、今日の話は上層部に報告する等の発言があった。

活動の概要

内容：CNAS（新アメリカ安全保障センター） 面談
日時：2015年6月3日（水）
面談者：上級顧問 パトリック・クローニン氏
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明した。
　また、中国を含む沖縄周辺の状況、普天間飛行場の辺野古移設、民主主義等について意見交換を行った。

活動の概要

内容：コクラン上院議員面談
日時：2015年6月3日（水）
面談者：タッド・コクラン連邦上院議員（上院歳出委員会委員長）、スタッフ
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明し、意見交換を行った。

活動の概要

内容：デント下院議員面談
日時：2015年6月３日（水）
面談者：チャールズ・デント連邦下院議員、スタッフ
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方等について説明し、意見交換を行った。

活動の概要

内容：連邦議会調査局インタビュー
日時：2015年6月3日（水）
面談者：アジア海外問題リサーチマネージャー　ダグラス・グロブ氏、
　　他調査員、スタッフ
備考：内容非公開

【面談の概要】
○　翁長知事からは、日米安保体制への認識や沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古移設に関する沖縄県の考え方、県民大会等の沖縄の反対運動等について説明を行った。

訪米記録

内容：ナショナルプレスクラブ会見
日　時：2015 年６月３日（水）
場　所：ナショナルプレスクラブ
参加者：翁長知事、那覇市長、名護市長、読谷村長、読谷村議会議長、
　　国会議員、県議会議員、市議会議員、経済人等
参加メディア：海外メディア５社、日系メディア１７社記者会見

○　下記のとおり会見を行った。
（基地対策課長）
　皆さん、こんばんは。本日は、翁長雄志沖縄県知事の訪米活動に伴う合同記者会見にご出席いただきありがとうございます。
　今回の会見は、翁長知事に同行し、ワシントンを訪問されている沖縄県議会議員、市村長及び市議会議員それから民間の方の同席で開催しますので、よろしくお願いします。
　まず、今回の訪米について知事からお話しいただき、その後、質疑応答とさせていただきます。それでは翁長知事よろしくお願いします。

（翁長知事）
　みなさんこんばんは。このように多くのみなさんが、私たち訪米団のために、多くの人たちが集まっていただき、また、ご質問等しながら、このことを多くの、ある意味で世界中の人たちに、知らしめていただけるということで集まっていただきまして、感謝申し上げます。
　先ほど、連邦議会調査局との質疑というかいろんなご質問を受けて、答えてきたところでございます。
　ハワイを皮切りに、今日、連邦議会調査局が、一応、仕事としてはピリオドで、こういう形で皆様方と会見をさしていただくのが、ある意味で、この訪米の総括になるんだなと思うと非常に感慨深いものがあります。
　昨年の年末に就任して、年末年始と、色々と、このことが多く国民の皆様方にその考え方が知らされました。それ以降も、毎日毎日が、普天間の新辺野古基地への移設ということで、いろんな形で、その問題に関わってまいりましたけども。ハワイを皮切りに訪米をいたしまして、その忙しさに、この 2 週間ぐらいでですね、負けないくらいの忙しさがあったなという感じもいたします。本当にこの半年間振り返って、沖縄県の置かれている立場というもの、本当に強くかみしめながら、今日後ろにいらっしゃる皆様方と、ご一緒しながら、やっぱり力強く前に前に歩いて行かなければならないなという気持ちであります。

それぞれ、上院・下院議員８名、シンクタンク含め、色々な方々と話し合いをしてまいりました。総括して話をしますと、あくまでもイメージですけども、８、９割の方は話を聞いてよく理解ができたと。初めて聞く話が多かったと、いうようなことがございました。

それから、同じく７，８割くらい、少しその数よりは少ないと思いますが、やはり、国同士で決めたことであるから、話としては、よく分かったけども、なかなか、それを触ることはできないという方々もおられました。

それでも、多くの方が、よく理解できた。あるいは初めて聞いたと。いうものの中に、今、国と国の「２＋２」あるいはオバマ・安倍会談、そういったこと等が上に乗っかっている中で、そういったものに理解ができたというのは、大きな広がりをみせたというのは、大変大きな成果ではなかったかなと思います。

この成果は、間違いなく来る前のものに比べれば、大きな上乗せがあったわけです。それを、また糧にして、帰ってから改めて一歩一歩前に進むということと、たくさんの友人をこのワシントン D.C.でも、ハワイでも作ることができました。今後ともその意味では連携してやっていこうという方々もたくさんおられましたので、これからは、県内、それから国内、それを通り越していって、特にワシントン D.C.、そして沖縄県人がたくさんおられるハワイ、そういったところでですね、この運動をもっと、世界的な意味合いに広げるよう努力していきたいと思います。

最初の挨拶は総括で３分から５分で終わってくれと、あとは質疑ということですので、今、総論的に、一定の報告をさせてもらいました。後は皆様方からの質問に答えながら進めていくと思いますので、よろしくお願いします。

（アルジャジーラ）

アルジャジーラの者でありますけども、今日、国務省の面会があったと思いますが、国務省からの声明を見ると、これは冷遇されたんじゃないかとも思っております。つまり、日米両政府は、普天間のキャンプ・シュワブへの代替施設建設に強固にコミットしていくということを述べたわけであります。

このステートメントに関して知事は、批判だと思われますか。あるいは失望されましたか。

（翁長知事）

国務・国防、ご一緒してお話をさせていただきました。ヤング部長、アバクロンビー国防次官補代理代行とお話をさせてもらって、両方あわせて約１時間半私がお話しをすることになりました。一番丁寧に私が説明をした会談だったと思っております。

歴史の面からも、今行われている普天間から辺野古への移設について、現実的な面でも、しっかり説明をさせていただきました。

私からすると、その質疑応答からすると、理解の深まっている感じもしましたが、今ご質問があったように、大変ある意味では、固い形での、これ、報告書というんですか？そういうものが出ているようであります。見てはいません。聞いただけです。見てはおりませんが、そういうふうなものもあります。ただ、やっぱり聞いて頂いたお二人は、見た感じの雰囲気からいうと、やや沖縄の問題に対しまして、理解が深まったというような、そういったような感じは受けた訳であります。ただし、国の仕組みというものは、そういう個人的なものを恐らくは凌駕するものがあると思いますので、そういう形になったと思いますが、いずれにせよ、この一時間半の議論の中でですね、大変問題が深まって、そして、上層部に伝えますと、いうことが最後の向こうの言葉でありましたので、伝えてくれることは伝えてくれるんだなというようなことも感じた会談でありました。

（QAB 記者）

今回の訪米の中で、国務省の少し厳しい内容の、これまでの回答を繰り返す内容もあったと思うんですけど、辺野古の工事も差し迫る中で、ゆるがない部分あったと思うんですが、その辺の受け止めと、今後、知事として具体的にどういうことをやっていけると考えていらっしゃるのか。

（翁長知事）

まあ、訪米をする前から、皆さん方との会見の中でも、頑ななワシントンD.C.の状況なども聞きながらこちらにまいりました。ですから、いま厳しいという話がありましたけども、これは私からすると、想定内の話でもありますし、なおかつ、その言葉の中に一人一人の私との議論の中身が浮かび上がってまいりますので、その議論そのものは、結果の厳しい意味とは別にして、大変、沖縄の言い分は理解できたと。そして、新しい情報が入って、ほんとにこの問題についての、理解が深まったというのが、ほとんどでございました。そして、そういった後に出てくるのが、いわゆる「２＋２」、首脳会談、国と国が決めたことなので、私ができることはそうはありませんがと、いうような感じの話であります。ですから、今回来て、ある意味で精力的に多くの話をして、最低 30 分、もっと熱を帯びてきたら 40~50 分等々、それこそ沖縄の普天間基地の問題が議論されたというのは大きな意味があったのではないかなと思います。

若干、個別的なものに触れさせてもらいますと、クローズが多かったものですから、全部紹介ができないことを、断っておきたいと思います。あるいはまた、内容は話してもいいけど、固有名詞は出さないでくれというような

こともございました。そういった中で、来る前に予想だにしなかったものが、ジョン・マケインさんとジャック・リード上院議員これは軍事委員会の委員長と副委員長でございまして、お二人とお話しができたのも、大変画期的なことだと思います。

ジョン・マケイン上院議員は、向こうの方から、これから節目節目で、お話をしたいですねという話がございましたので、コメントは向こうが出してありますから、その内容はそれを読んで頂いて、いわゆる、会話を続けましょうということが、大変大きかったように思っています。

これは、もう名前は出せませんが、是非とも議会で沖縄に行って調査をしたいというような方もございました。それから、これも表現方法になるのですけども、沖縄の基地の問題があるというのならば、問題があるんでしょうと、私はいい判断のために一生懸命努力をしたいというようなことも話がございました。

ですから、必ずしも、表面上の国と国との関係だから触れないんだよということだけではなく、そういった話を聞いての感想等も、結構聞きましたので、やはり最初の訪米（ということ）からすると一歩前進したと、これから、こういったある意味での信頼関係ができた方々と連絡を取り合いながらやる部分において、前に進める部分もあるのではないかと思っています。

（共同通信記者）

よろしくお願いします。先ほど知事は、８～９割程が、問題自体初めて聞いたと、米国内にはそういう方が８割～９割いたと、言われましたけれども、これはつまり、今回の訪米で、米国政府なり米国議会なりに地元に強い反発があるという意識付けできたと、それが成果の一つだという認識をお持ちだということでいいのかということと、今回の訪米の成果を移設阻止にどのようにつなげていくのか。例えばマケインさんは、対話をしていきたいという風に、そういう言質を引き出されたということで、これを例えば日本政府と交渉する時に、マケインさんら有力議員はこういう風に言っているという形で押し出されていかれようとするのか、そこらへんの今後の戦略も含めてお答えいただければと思います。

（翁長知事）

そういう新しい話を向こうが聞いたというようなことは、反対の意見が強いんだということの意識付けかというようなことでございました。そのつもりで言った訳ではありませんけれども、結果的に私が話をする。例えば、これは日本記者クラブでもそうでありましたし、海外の特派員もそう申し上げましたが。例えば沖縄の基地は、自ら提供したことは一度もないとか、あるいは３万５千名の５月 17 日の集まりなんかの写真を見せた場合でも、これ

をご存知であった人は一割もいなかったのではないかと思います。こんなにたくさんの人が集まったのかということを聞かれました。これはそうすると工事が始まると、みんなそういう形で参加する人達なのか等ですね。そういったような質問がある中に、やっぱりいろんな物事の話をする時に、こういうものはある意味では、県内では普通になってきたことでありますけども。ここに参りますと、こういったことのひとつひとつが、みんな初めてのことである中に、結果的に、いわゆる日本政府が、日米両政府で辺野古が唯一だと決めて、必ずやり遂げると言ったことを、ここの人はある意味で信じている訳でありますが、実際上はいろんな理由によりまして、工事はなかなか前に進まないんだということも、ご理解はいただいたと思っております。

それから、マケインさんとの話の中では、やっぱりこういう話もしながら、ですからこの問題は節目節目が出てきますよと、いう話をさせてもらいました。一旦物事が前に進んで、そしてそれが挫折をすることが、日米安保体制に大きなリスクを伴いますので。先々のことは簡単に言えませんが、節目節目が出てまいりますと。その時にはご相談にも乗ってくれませんかと、いうような話をしましたところ、まあ、この件に即応ではなくて、ちょっと時間をおいてから、先ほどのようにですね、これからも話し合いは続けていきましょうというような向こうの言葉がございましたので。そういう中で、いわゆる、今までガチンコではありますけれども、話し合いをするという中に、一つの提案とか、そういうものはあるかもしれませんけれども、今の時点では私共は、そこに、目に見えた形での工事の進展はさせないというところが大きな眼目でありますので、それをしながら、ひとつひとつの節目を前にしながら、私なりに考えてやっていきたいと考えております。

（NHK 記者）

この 10 日間という長い訪米で、知事の心境、行く前と現在で変化があったかと思うんですけども、その変化について教えていただきたいというのと、その変化が、今おっしゃった大きな眼目である工事の進展をさせないという今後の知事の姿勢に、今回のその心境の変化、どういう形で影響を及ぼすでしょうか。

（翁長知事）

ハワイを皮切りに今日まで来た訳ですが、ハワイは、特に沖縄県人会がおられるということもございまして、大変な反響でございました。色々、ラジオを通じても問い合わせが多かったり。いろんな話を聞いて、やはり行って話をすることの重要性というものは大変強く感じ、このワシントン D.C.にやってきたわけでございます。

その中で、先ほど来、申し上げましたように、本当に多くの方々と対談を

し、少なくともご理解という意味では頂いたと、いうようなことがございました。

この D.C.に来てタクシーに乗った時に、手を挙げて止めたタクシーですが、一緒に乗った人が、沖縄の知事だよという話をしましたら、よく知っているよと。昨日、一昨日ニュースでやってて、基地の問題でしょ、尖閣も問題なのかなという感じで話をするところに、やはりこういう形でワシントン D.C.まで行くと、一般の方々まで、そういう形での反応が出てきているという風に思います。

そして、ありがたいことにハワイでも、このワシントン D.C.でも一部のマスコミでも報道があったというようなこと等も含めてこの影響力の大きさが、今すごくあります。

今まで、ただただ、県内でオール沖縄といいますか、イデオロギーよりはアイデンティティということを取りまとめて、そしてそれをベースにしてきた。その中で、今日までのことを振り返って、今の質問にお答えしたいんですが、昨年の暮れから、３月くらいまでは、改めて県民の心を一つにするというようなことに全力を注いだような感じがしますし、それから、辺野古で着々と物が進んでいきますのでそれに対する対応策等々を、議論をしながら、来たような感じがします。そして、そういったことを受けた後、４月に入って、菅官房長官、安倍総理との会談がございました。その中で、国内のある意味で関心が、グンと高まったような感じがいたします。そして、訪米をする前に日本人記者クラブでの議論、それから外国特派員クラブでの皆さんとの議論、そういったことをやる中で、大変ある意味で関心が高まったような気がいたします。

ですから、本土の主要な新聞の世論調査で、これ平均したイメージですけども、10 ポイントくらいの多さで新辺野古基地に反対をするという国民世論がございました。そういったものを受けた後、ここに参りまして、今申し上げた反応等々が出てきたわけでありますから、まだまだ私たちのやるべきこと、あるいはそれに向けての戦い、というと語弊があるかもしれませんが、私たちの実現に向けてやるものは、まだまだたくさんあるなと、そして一歩一歩間違いなく前進しているというようなことがございます。

ですから、今心境の変化ということからすると、まったく暗中模索の中から、一筋の光が見えてきて、そしてそれは私たちが望んでいるものに近づいていけるような可能性というものを、しっかりと私は感じております。

ですから、今の心境という意味からすると、この半年間、ある意味で県民も全体そうだったと思いますが、もがき苦しんでいる中で、だんだん整然とした動きが県内にも国内にもそして国外にも出てきていますので、私は大きな進歩だという風に思っております。